

● 医学分館 2F 開架書架(第二) 410/SUU/1  
410/SUU/2

## 数学入門 上下

遠山 啓 著 岩波書店



原稿の依頼を受けて新しいものや流行りの分野のものも考えたが、私が学部初年の頃から何度か読んで本書を選んだ。久々に読み返してみても、物事を考えるときに土台や材料としているものがかつて思い当たる。振り返ると数学が単なる道具以上のものであり、世界を新たな視点から見るための場となるのがわかる。

本書が書かれたのは60年も前で時代を感じさせる記述もあるが、全体の内容は古くなっていない。学部教養までの数学はほとんど19世紀以前に作られたもので、どの内容を扱うかを除いては数十年くらいで大きく変わることはない。

本書の魅力は豊富な図版と数学に関わる文化までを伴うわかりやすい説明である。著者はもともと代

数学の研究者から数学教育の改革運動に転じた。誰にでもわかるようにと数学史やたとえ話などを取り入れ自然で手練れの説明が多く、行列式の導入など目を見張る。

あとがきに数式を飛ばして読んでも全体の意味はつかめるように配慮したとあり、実際にその通りだと思いが、やはり数式を読み込む方がより豊かな読み方ができるだろう。数式を読む際には、音楽やスポーツや芸事などの実技のように、計算用紙を使って実際に何度も書くことで初めてその中に入ることができる。テストに追われるわけでもないのだから長に議論を追いかけ、時には前に戻って定義などを見直すとだんだんわかってくる。そのことは数学では顕著だが、他の学問でも事情は同じだと思う。



● 本館 2F 一般書架 801.04

## ちいさい言語学者の冒険 — 子どもに学ぶことばの秘密 —

広瀬 友紀 著 岩波書店



日本では今、子どもから大人まで、かつてないほど英語の学習熱が高まっています。英語が得意かそうでないかによって、この現状をどう見るか個人差が大きいと思われまます。

一方、私達は母語である日本語については、特別な訓練もなしに、生後わずか数年で、その発音や文法に関する複雑な規則をいとも簡単に習得します。また、外国語学習に見られるような個人差もありません。なぜ母語習得はこのように容易に行われるのか、よく考えると実に不思議です。このような問いを投げかけると、真っ先に返って来るのが、家族など周りに母語を話す人が常にいて、その人達が話すのを真似して、あるいはその人達から教わって習得できるからだという答えです。本書はそんな俗説を根底から覆すような実例を数多く挙げ、子ども達は、周りで使われている母

語の例に基づいて、自ら発音や文法の法則を導き出して(タイトルの「ちいさい言語学者」)母語を習得していることを示しています。そこで想定される法則は、口の中での調音位置や動詞の活用などに関わるもので、大人達は子どもに教えるどころか普段自覚すらしないものです。同じような事例が人間の言語の母語習得一般に見られることから、人間の子どもの発音や文法を分析する一定の能力を生まれながらに持っていると考えられています。

外国語学習にも同じ能力がそのまま生かされるならどんなに便利かと思うのですが、少なくとも本書は、私達が母語に関して無意識のうちに持っている複雑な知識の一端を自覚させ、驚嘆させてくれる一冊です。



教育学部 言語教育講座  
マツオカ ミキナリ  
松岡 幹就 准教授